

# 伊勢湾の複合型藻類養殖技術開発事業

山田大貴・清水康弘・林茂幸

## 目的

伊勢湾では、多様な種類の漁業が営まれているが、漁場環境の悪化、魚価の下落や経営コストの上昇などによって漁業を取り巻く環境は厳しさを増しており、経営を安定させるためには、単一魚種漁業に依存せずに複合的な経営（複数の漁業種類を行う）によって収入を確保していく「不漁リスク分散型漁業」への取組みが重要な課題となっている。

ヒトエグサ養殖は、伊勢湾で営まれている他の漁業（黒ノリ養殖業・機船船びき網漁業・小型機船底びき網漁業）に比べて比較的、設備投資や加工経費を安価に抑えることができる（陸上加工設備は黒ノリ養殖の約1/4程度の初期投資で済む）。そのため、ヒトエグサ養殖と他の漁業との複合的な経営を行うことが漁業経営リスク分散として有効と考えられる。

本事業では、伊勢湾においてヒトエグサ養殖の主生産地である松阪地区以外の海域でのヒトエグサ養殖適地の探索および当該地区でのヒトエグサ養殖導入による経営分析などを行う。

## 方法

### 1 モデル地区の設定

ヒトエグサ試験養殖のモデル地区として鈴鹿市下箕田地区と津市香良洲地区を選定した。下箕田地区では、主に黒ノリ養殖業、機船船びき網漁業および小型機船底びき網漁業が営まれており、香良洲地区では、機船船びき網漁業と小型底びき網漁業が営まれている。

下箕田地区においては食害対策として、昨年度試験実施場所に比較してカモが少ないとされる場所において養殖試験を行った。香良洲地区においては昨年度試験実施場所と比較して河川水の影響が少ない場所において試験を実施した。

### 2 ヒトエグサ養殖試験

ヒトエグサ養殖試験に用いた種網は、天然採苗された後、葉長数 cm まで育苗された的矢湾産を用いた。モデル地区のうち下箕田地区 16 網、香良洲地区 15 網（生産者持分で 43 枚）計 31 枚張り込みを行った（下箕田地区：平成 28 年 11 月 19 日、香良洲地区：11 月 15 日）。その後、生育状況を生産者および地区担当普及指導員と確認した。

### 3 モデル地区における経営分析

養殖試験で生産した製品の評価はあおのり共販に参

加する入札者から得た。また、養殖にかかる経費については養殖試験参加者から聞き取りを行った。

## 結果と考察

### 1 ヒトエグサ養殖試験

#### 1-1 鈴鹿市下箕田地区

養殖試験開始後、10 日程度で葉体の色調が浅緑から深緑へ変化するとともに伸長が確認できた。その後、12 月中旬ごろから鳥類が周辺に集まっていることが目視で確認され、摘採を行った 12 月 21 日ではごく少量の製品が生産されたのみとなったが、生産された製品については、良好な評価を得た。同時期から黒のりの生産が本格化したこと、摘採日以降食害が激しくなったことから、試験は継続したものの、その後摘採はできなかった。

下箕田地区では、昨年度に続き順調なヒトエグサの伸長が確認され、ヒトエグサ養殖に適した環境であるが食害対策として防鳥ネットの設置等が重要であると示唆された。

#### 1-2 津市香良洲地区

香良洲地区では、食害対策として 1 月上旬に防鳥ネットを設置した。目立った食害被害もなく順調に生育し、1 月 21 日以降摘採が行われた。生産された製品について、一部が青さのり共販 5 回汐および 6 回汐で入札が行われた結果、最高単価 15,590 円/kg、平均単価 14,273 円/kg と高い評価を得た（区画漁業権生産分）。

香良洲地区においては、養殖試験場所でヒトエグサ養殖が可能であり、高品質な製品が生産できることが分かった。

### 2 モデル地区における経営分析

香良洲地区における 1 網（18m×1.2m）あたりの製品は乾燥重量で約 4kg/網であった。この数値と今年度の県内平均単価 11,005 円/kg を用いて費用対効果を検証したところ、加工を委託し生産を行う香良洲地区では本年度のような海況の場合、25 枚以上で収益が見込めることが推計された。

また、下箕田地区においては、黒のり養殖で使用している支柱や加工機械等の流用が可能であり、高品質な製品を生産できることが分かった。しかしながら、黒のり養殖の生産が本格化すると、ヒトエグサ養殖と養殖管理のスケジュールが重複し、うまく両立できないことが判明した。そのため、今後は、両養殖の養殖管理スケジュールなどの見直しが課題となると考えられた。